



NTT DATA
Trusted Global Innovator

令和5年度新事業創出・食品産業課題解決プラットフォーム運営・調査 委託事業のうちフードテック官民協議会運営等委託事業 事業報告書

2024年3月15日
株式会社NTTデータ経営研究所

(1) 協議会事務局運営	3
① 総会の開催	4
② 提案・報告会の開催	4
③ 会員の入退会受付、会員名簿の管理	7
④ 会員向けの情報提供	8
(2) 会員等のマッチングの強化	9
(3) スタートアップエコシステムの強化	15
(4) フードテックビジネスコンテスト業務	19
① 審査委員の選任	20
② ビジネスプランの募集	22
③ 審査委員会の運営	24
④ 本選審査及び表彰式の運営	25
⑤ 副賞等の企画	28
⑥ 受賞者の情報発信	29
(5) ロードマップの改訂支援	30
① WT・CC等からの意見聴取	31
② 協議会会員からの意見聴取	32
(6) WT・CCの進行管理	33
(7) Appendix	39

(1) 協議会事務局運営

(1) 協議会事務局運営

① 総会の開催、② 提案・報告会の開催 (1/3)

総会／提案・報告会を3回開催し、ロードマップ改訂報告、WT/CC・会員・関係者からの報告、有識者講演、ネットワーキング等を実施した。

令和5年度 第1回 開催概要

日時：2023年6月20日15時00分～18時00分

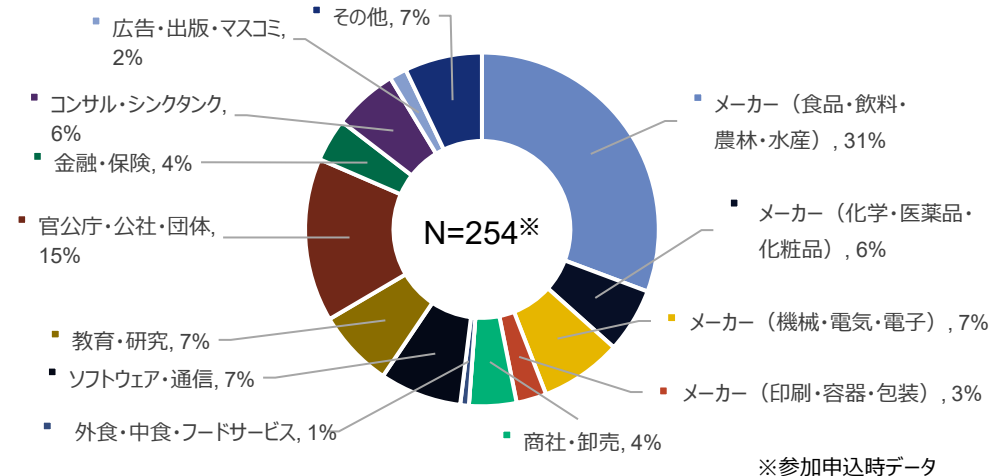
場所：室町三井ホール&カンファレンス (Web併催)

参加者：240名 (会場100名、オンライン140名)

議 事：

1. 農林水産省ご挨拶
2. 今年度の協議会方針・実施内容
 - ① 今年度の方針策定における背景
 - ② 今年度の方針・実施内容・スケジュール案
 - ③ ビジネスプランコンテストの案内
3. JETROからの情報提供
 - ① 世界をめざすフードテックスタートアップへのサポートメニュー (JETRO イノベーション部)
 - ② シンガポールのスタートアップ・エコシステム (JETRO シンガポール)
 - ③ オランダのフードテックについて (JETROアムステルダム)
4. SBIR基金事業に関する説明
5. WT/CCからの報告
(スマート育種産業化WT、ヘルス・フードテックWT、細胞農業CC)
6. 会員からの提案・報告 (全16団体発表)
7. ネットワーキング (全17団体ブース出展)

内 訳



(1) 協議会事務局運営

① 総会の開催、② 提案・報告会の開催 (2/3)

令和5年度 第2回 開催概要

日時：2023年10月25日15時00分～18時00分

場所：東京ミッドタウン八重洲（Web併催）

参加者：170名（会場82名、オンライン88名）

議事：

1. 農林水産省ご挨拶

2. ロードマップ改訂報告

3. WT/CCからの報告

（細胞農業WT、食生活イノベーションWT、Plant Based Food普及推進WT、ヘルス・フードテックWT、細胞農業CC）

4. <特別講演> 西村あさひ法律事務所 杉山泰成氏、辻本直規氏、金子祥悟氏

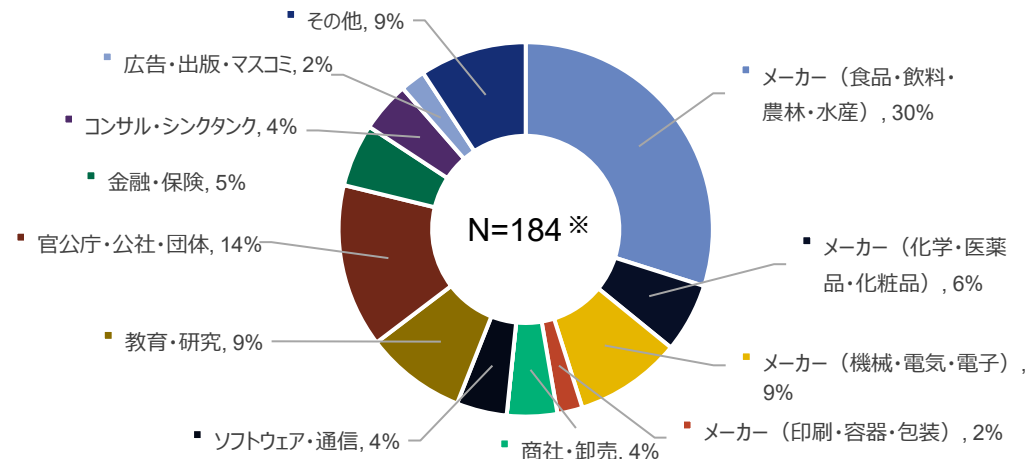
「フードテック企業の海外展開時の法務戦略について～海外展開時に留意すべき契約や法規制～」

5. 会員からの提案・報告

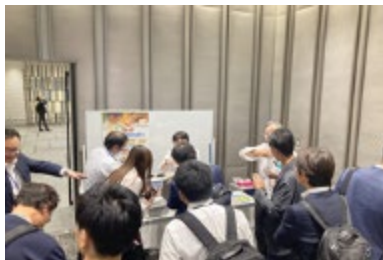
6. 勉強会・セミナー実施報告（全8団体発表）

7. ネットワーキング（全7団体ブース出展）

内訳



※参加申込時データ



(1) 協議会事務局運営

① 総会の開催、② 提案・報告会の開催 (3/3)

令和5年度 第3回 開催概要

日時：2024年2月20日14時30分～18時00分

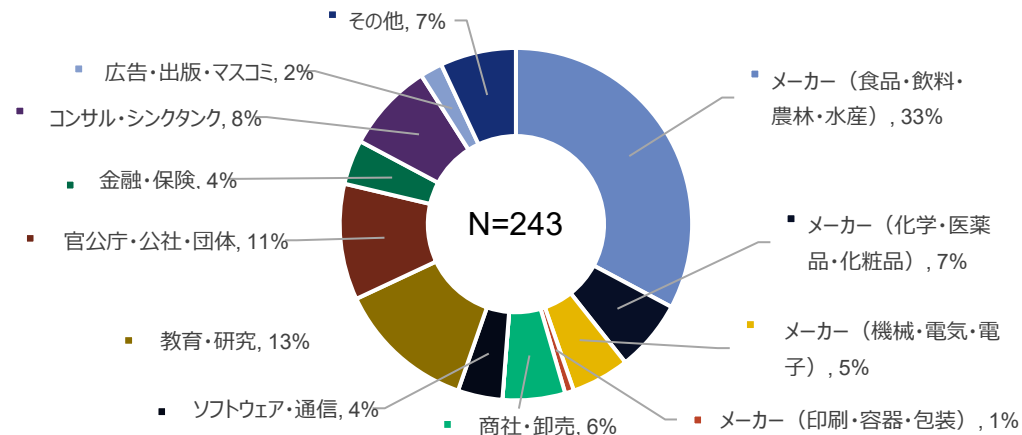
場所：東京ミッドタウン八重洲 (Web併催)

参加者：243名 (会場110名、オンライン：133名)

議事：

1. 農林水産省ご挨拶
2. 支援策 (フードテック関連予算等) の説明
3. WT/CC からの提案・報告
食生活イノベーション WT、昆虫ビジネス研究開発 WT、Plant Based Food 普及推進 WT、ヘルス・フードテック WT、FOOD TECH Lab CC)
4. 農業・食品産業技術総合研究機構 (農研機構) からの研究テーマ発表
「農研機構の技術・研究リソース活用で課題解決のスピードアップを！」
5. 会員からの提案・報告 (全16団体発表)
6. 勉強会・セミナー実施報告
7. 会員向けアンケート結果報告
8. ネットワーキング (全15団体ブース出展)

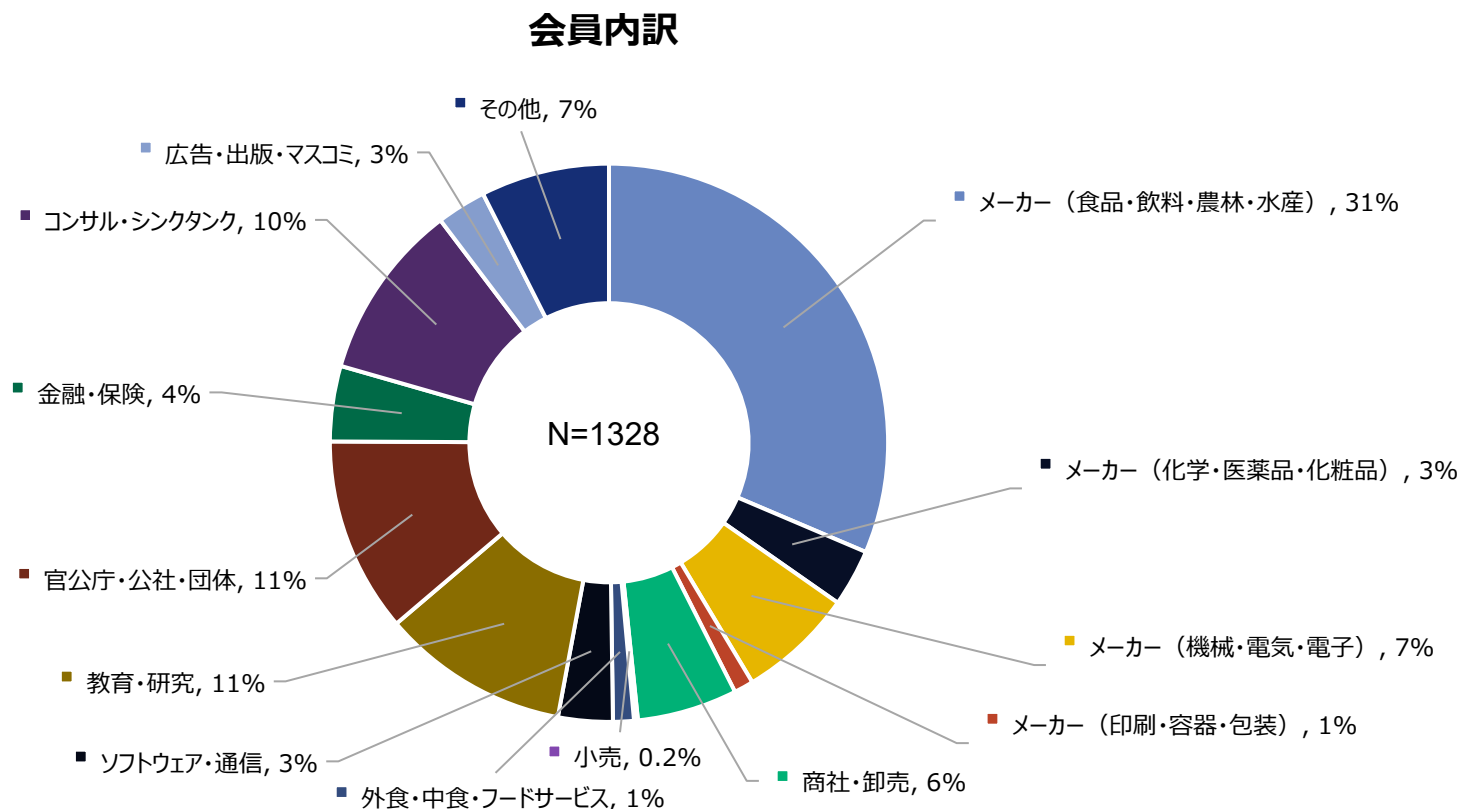
内訳



(1) 協議会事務局運営

③ 会員の入退会受付、会員名簿の管理

会員の入退会は、農林水産省のWEBサイトにリンクを設置した当社の「資料請求フォーム」を通じて実施。会員数は約1,160名から約1,320名となり、事業期間中に150人以上増加した。



(1) 協議会事務局運営

④ 会員向けの情報提供

会員向けの情報提供として、毎月国内外のフードテックをめぐる動向やフードテックに関連する情報をメールマガジン「フードテックマンズリーレポート」にて配信した。また、貴省や会員からの依頼に基づき、月次以外にもメールマガジンで会員に対して関連する情報を提供した。

フードテックマンズリーレポートのタイトルピック・毎月のメール配信数

発行月	件名に付した主要なトピック（毎月配信メール数）
2023年4月	総会提案・報告会の開催周知、補助事業募集 他（月次含め1本配信）
2023年5月	総会提案・報告会の参加案内、補助事業募集、ファンド情報公開 他（月次含め5本配信）
2023年6月	総会提案・報告会の資料公開、フードテックビジネスコンテスト賛助依頼、セミナー開催案内 他（月次含め4本配信）
2023年7月	フードテックビジネスコンテスト賛助依頼、セミナー開催案内 他（月次含め5本配信）
2023年8月	総会提案・報告会の開催周知、フードテックビジネスコンテストプラン募集 他（月次含め6本配信）
2023年9月	総会提案・報告会の参加案内、フードテックビジネスコンテストプラン募集 他（月次含め6本配信）
2023年10月	フードテックビジネスコンテストスケジュール周知、あふの環プロジェクト動画募集 他（月次含め9本配信）
2023年11月	総会提案・報告会の開催周知 他（月次含め4本配信）
2023年12月	ピックアップ情報 他（月次含め5本配信）
2024年1月	総会提案・報告会の参加案内 他（月次含め9本配信）
2024年2月	フードテックビジネスコンテスト結果報告、セミナー情報 他（月次含め8本配信）

(2) 会員等のマッチングの強化

(2) 会員等のマッチングの強化

① 方針策定 (1/2)

方針策定にあたり、会員との意見交換やアンケート等から要望を収集し、有識者の意見を参考に今年度の活動を検討した。

STEP 1 情報収集

■ WTとの意見交換及び会員向けアンケート

■ 活動検討会議

日時：2023年5月11日14時00分～16時00分

場所：東京ミッドタウン八重洲

参加者：7名（大手食品企業、スタートアップ、VC）

概要：

- ・ 事業連携や投資時の課題感や期待
- ・ フードテック推進に向けた意見収集

STEP 2 戦略検討

■ 戦略検討会議

日時：2023年5月25日13時30分～15時30分

場所：東京ミッドタウン八重洲

参加者：田中 宏隆氏（株式会社シグマクス）、有馬 暁澄氏（Beyond Next Ventures）、中野 玲也氏（森・濱田松本法律事務所）

概要：

- ・ 国内オープンイノベーションを進める方策、新たなテーマ創出
- ・ スタートアップ育成に向けて有効な手法
- ・ 海外展開に向けて有効な手法

フードテック推進における課題・解決策の総括

資金調達
関連

- ・ SU側の認識は資金流通が少ないという認識。事業会社は投資対効果を見込める企業がないという認識で認識に乖離がある。当認識の差を埋める方法の1つは、技術を正しく評価出来る人の育成・アサインか。

事業連携
関連（販路の
支援・共同開
発）

- ・ 全般的にうまくいかないことが多い認識。大手側のコミットメントが成功の鍵を握っていることが多く、出向者等を出して、「人」をコミットさせるかが成功/失敗の鍵を握っている模様。

戦略検討におけるご意見総括

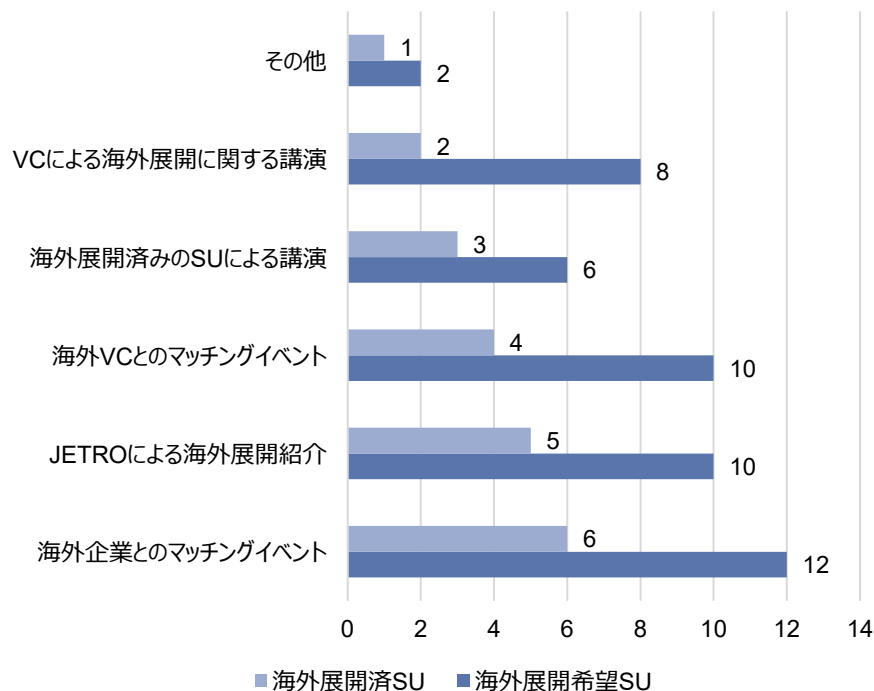
- ・ 熱意あるメンバーが集まり、課題を共有する場が必要。フードテック官民協議会だからこそ解くべき問いは何か。
- ・ 既存のWTでは解決できないような、業界横断的な課題について議論、アプローチすることはできないか。（例：販売関連（消費者行動）、規制へのアプローチ）
- ・ 日本だからこそ解決すべき課題について、議論、アプローチすることはできないか。（例：災害食関連、和食の海外展開、健康関連）

(2) 会員等のマッチングの強化

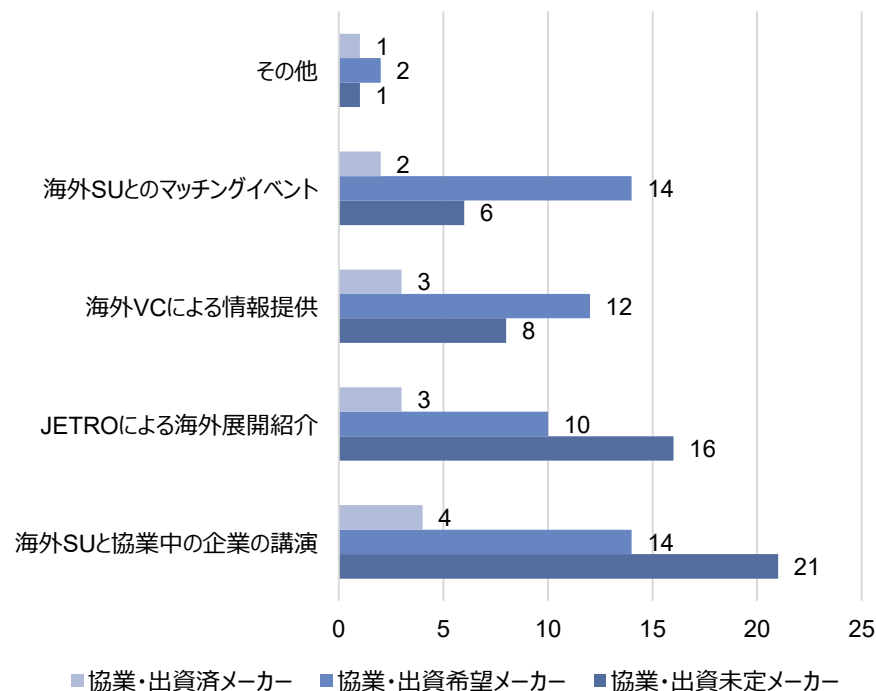
① 方針策定 (2/2)

事業の海外展開に関するアンケート結果より、スタートアップ、スタートアップ以外の事業会社合計で49社以上の企業が海外展開に興味がある旨、確認した。JETROによるイベントはスタートアップ、事業会社ともに期待値が高かった。

海外展開における課題 (対象：スタートアップ)



海外協業・出資における課題 (対象：事業会社)



N=75

※結果一部抜粋

(2) 会員等のマッチングの強化

② イベントの開催状況

フードテック推進に向けて、「海外展開支援」「消費者アプローチ」「日本らしさの追求（和食や健康価値の追求）」をテーマとした勉強会・セミナーを開催した。

イベントの開催概要

テーマ	開催日	形式	タイトル
消費者アプローチ	2023年9月27日	勉強会	消費者アプローチ／サステナブルなレストラン
健康価値の追求	2023年10月3日	勉強会	健康と美味しさを両立させるために必要なフードテック
海外展開	2023年7月18日	セミナー	国内スタートアップ企業向け JETRO東京・海外展開支援解説セミナー
海外展開	2023年8月25日	セミナー	海外スタートアップ企業との協業・出資を検討する企業向け JETRO東京・海外展開支援解説セミナー
海外展開	2023年11月14日	セミナー	欧米トップVC～アクセラが期待するポイント～
スタートアップ強化	2023年11月25日	セミナー	フードテックスタートアップ強化セミナー
健康価値の追求	2023年9月22日	セミナー	健康情報統合データベースの構築と利活用
日本食	2023年11月14日	セミナー	日本食・日本産農産物の海外展開と輸出戦略
日本食	2023年12月12日	セミナー	日本食ブームを支える技術

(2) 会員等の
マッチングの強化

(3) スタート
アップエコシステムの
強化

(2) 会員等のマッチングの強化

③ 勉強会の開催

消費者アプローチ

日時：2023年9月27日16時00分～18時00分

場所：東京ミッドタウン八重洲

進行：日本電気（株）（現Policy Makers Lab） 田中 雄揮 氏

現地参加者：23名

概要：

サステナブルな取り組みを行うレストランに対し、消費者の関心が高まり、進んで食事を行いたくなるメカニズムを解明し社会実装の足掛かりを作ることを目指す

■ 現状把握

- 感度が高い消費者の行動／食に関連するストーリーの訴求力／他業種業界の成功事例と共通点

■ 普及課題

- 取り組みを行うレストランの現場課題／消費者が納得するアピール要件／感度が低い関心がある消費者に対するアプローチ

■ 課題解決策

- 得られた課題を解決するためのメカニズム／Web3を用いた課題解決／エコシステム化／他業種業界との連携



健康と美味しさを両立させるために必要なフードテック

日時：2023年10月3日16時00分～18時00分

場所：東京ミッドタウン八重洲

進行：（株）ゼンショーホールディングス 永井 元 氏

現地参加者：30名

概要：

- どういう技術イノベーションが必要か？

栄養吸収の可視化／食行動の記録とそのデータ化／デジタルツイン

- 健康を考えた新しい食品の定義

（健康を考えた）我慢をしない食事／化学成分からの食品設計

- 健康啓蒙の刷新

態度変容（行動変容）／健康非関心層の食生活改善の仕組み作り／データサイエンスからのアプローチ、予測システム



(2) 会員等のマッチングの強化

④ 総会／提案・報告会におけるマッチングの場創出

各回の総会／提案報告会において、会員及び関係者からの発表及びブース出展を募集し、フードテック関連の取組や技術シーズの紹介、イベント告知等が行われた。

	第1回総会／提案報告会	第2回総会／提案報告会	第3回総会／提案報告会
発表・出展	<ul style="list-style-type: none"> ・ (株) NTTデータ ・ (株) ウェルナス ・ ミツイワ (株) ・ (株) コル ・ (株) Sydecas ・ Sustainable Food Asia (株) ・ (株) Kinish ・ (株) アルガルバイオ ・ DSM (株) ・ (株) Agnavi ・ SAKE Generation (株) ・ 細胞農業CC 	<ul style="list-style-type: none"> ・ (株) エスケア ・ 荏原製作所 ・ (株) あじかん ・ ミツイワ (株) ・ Shojinmeat Project ・ (株) アルガルバイオ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農研機構 ・ ミツイワ (株) ・ (株) Finger Vision ・ ICS-net (株) ・ AGRIST (株) ・ (株) ファームシップ ・ (株) エンドファイト ・ (株) TOKYO8 GLOBAL ・ (株) CAN EAT ・ (株) ウェルナス ・ (株) ファーマンステーション ・ (株) MNH ・ 中小企業基盤整備機構 ・ ヘルス・フードテックWT
発表のみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ (株) SDGインパクトジャパン ・ Wildcard Incubator ・ 西村あさひ法律事務所 ・ (株) エスケア ・ 東芝エネルギーシステムズ (株) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ RX Japan ・ bitBiome (株) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プラチナバイオ (株) ・ (株) リプル ・ GROW / (株) メロス ・ ReThink / (株) メロス
出展のみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ (株) 東京バル ・ 衣笠屋 ・ 新エネルギー・産業技術総合開発機構 ・ Byte Bites (株) ・ (株) CAN EAT 	-	<ul style="list-style-type: none"> ・ (有) 幸和商事

(3) スタートアップエコシステムの強化

(3) スタートアップエコシステムの強化

① 海外展開セミナーの開催

国内スタートアップ企業向け JETRO東京・海外展開支援解説セミナー

日時：2023年7月18日14時00分～16時00分

場所：東京ミッドタウン八重洲 + zoomウェビナー

講演者：JETROイノベーション部 樽谷 範哉 氏

現地参加者：2名

オンライン参加者：16名

概要：

- 世界にスケールするスタートアップの mindset (シリコンバレーの事例から)
- 世界のエコシステムを活用してスケールアップするスタートアップ (メンターの活用：PMF検証、KOL/PoC/顧客獲得 他)
- 海外投資家からの資金調達について
- フードテック分野での世界での販路開拓について (食品・飲料分野を例に)



海外スタートアップ企業との協業・出資を検討する企業向け JETRO東京・海外展開支援解説セミナー

日時：2023年8月25日14時00分～16時00分

場所：室町三井カンファレンス + zoomウェビナー

講演者：JETROイノベーション部 樽谷 範哉 氏、廣田 新 氏

現地参加者：8名

オンライン参加者：8名

概要：

- 世界にスケールするスタートアップの mindset (シリコンバレーの事例から)
- 大企業からみたイノベーション戦略 (オープン・イノベーション)
- 大企業のシリコンバレー活用 (オープン・イノベーション拠点)
- オープン・イノベーション推進におけるJETROの取り組み



(3) スタートアップエコシステムの強化

② 海外展開及びスタートアップ強化セミナーの開催

欧米トップVC～アクセラが期待するポイント～
著名VCと話題の米代替肉スタートアップ創業者のメッセージ付き！

日時：2023年11月14日14時00分～16時00分

場所：東京ミッドタウン八重洲

進行：Wildcard Incubator LLC. 熊谷 伸栄 氏

現地参加者：9名

概要：

- 日本のスタートアップが欧米市場から注目されるポイント、事業会社と欧米スタートアップとのビジネスの肝 / Wildcard Incubator LLC. 熊谷 伸栄 氏
- 日本SUが海外に進出する際の留意点・アドバイス / SOSV/Indie Bio/HAX Joffe氏
- 日本SUが海外に進出する際の留意点・アドバイス / Evo Foods Dixit 氏
- ほか、2社よりビデオメッセージ



フードテックスタートアップ強化セミナー

日時：2023年11月25日13時00分～18時00分

場所：東京ミッドタウン八重洲

参加者：9名

概要：

- フードテックスタートアップ採用組織づくりの要諦 / Professional Studio (株) 代表取締役 市川 龍太郎氏
- 海外展開を見据えた法律実務 / 森濱田松本法律事務所弁護士 中野 玲也氏
- 大手企業との協業、CVCからの出資獲得戦略 / 味の素 (株) マネージャー 斎藤 博幸氏
- フードテックスタートアップ強化の為の行政施策について / 農林水産省



(3) スタートアップエコシステムの強化

③ 日本らしさの追求（和食や健康価値の追求）に関するセミナーの開催

健康情報統合データベース構築と活用

日時：2023年9月22日14時00分～16時00分

場所：ZOOMウェビナー

オンライン参加者：85名

概要：

- well-being向上をめざしたセルフケア食開発のための機能性成分データベース等データの活用について／農研機構 食品研究部門 山本(前田)万里氏
- マイクロRNAを介した食品の健康維持・増進効果／九州大学大学院 農学研究院 立花 宏文氏
- 日本人健康者腸内マイクロバイオーム情報の整備と活用／産総研 バイオメディカル研究部門 関口 勇地氏

日本食・日本産農産物の海外展開と輸出戦略

日時：2023年11月14日16時00分～18時00分

場所：ZOOMウェビナー

オンライン参加者：33名

概要：

- 日本食・日本産農産物の海外展開と輸出戦略／農研機構 研究管理役 後藤一寿氏
- フランスでの日本酒普及活動について／有限会社 Freeman France ベコン 倫子氏
- パリを中心とした日本茶の普及、コンテストを通してのプロモーションなど／フランス日本茶大使 能宗-Lelong 美佐子

日本食ブームを支える技術

日時：2023年12月12日16時00分～17時00分

場所：ZOOMウェビナー

講演者：Kikkoman Europe R&D Laboratory B.V. 佐藤 拓也氏

オンライン参加者：62名

概要：

- 醤油を用いて減塩を達成する海外の研究事例
- 東洋食品卸売におけるトレンド 等

(4) フードテックビジネスコンテスト業務

(4) フードテックビジネスコンテスト業務

① 審査委員の選任 (1/2)

フードテックや、フードテックを活用したビジネスの情勢はもとより、食料需給・環境負荷低減など社会課題のマクロ的な視点、健康・環境志向など消費者需要やそれを含めた食産業、起業家育成・支援、資金調達、民連携等の観点に知見を持つ、全国の学識経験者、実需者、支援者などより二次審査員では以下4名を選任した。

氏名	所属	プロフィール
有馬 暁澄	Beyond Next Ventures株式会社	丸紅入社。穀物本部にて、トレーディング事業を通じて生産から販売までのアグリ全般に携わる。2019年8月、当社に参画。アグリ・フードテック領域のスタートアップへの出資・成長支援に従事。産学官民のアグリ・フードのエコシステム構築にも邁進。慶應義塾大学理工学部生命情報学科卒業。
大野 泰敬	株式会社スベックホルダー	複数企業を経営する事業家兼投資家。ラジオNIKKEIの情報番組「ソウミラ」のメインパーソナリティ。ソフトバンク株式会社で新規事業などを担当した後、CCCで新規事業に従事。2008年にソフトバンクに復帰し、当時日本初上陸のiPhoneのマーケティングを担当し、シェア拡大に貢献。独立後は、企業の事業戦略、戦術策定、M&A、資金調達などを手がけ、大手企業14社をサポート。テクノロジーに精通しており、東京オリンピック大会組織委員会ITアドバイザー、農林水産省農林水産政策研究所客員研究員にも就任。現在は大手企業の顧問・アドバイザーなど複数兼務しながら、地域活性化や観光サポートなどを実施。
進藤 かおり	株式会社パソナグループ	2010年株式会社パソナグループに入社。社内起業家のためのインキュベーションファンドの事務局長を務める。起業による雇用増増を目指し、社内起業家の輩出に力を注ぐ。スタートアップのビジネスモデルの分析など、日系投資顧問会社のファンドマネージャーの経験を活かし、社内起業家のメンターや事業構築に携わる。
村田 靖雄	オイシックス・ラ・大地株式会社 Future Food Fund 株式会社	2008年よりオイシックス株式会社に入社、品質管理、青果仕入れ、店舗事業部などを経て、2018年より経営企画本部にてベンチャー投資セクションに配属。2019年食に特化したベンチャー投資を行う「Future Food Fund 1号投資事業有限責任組合」を組成、ファンドマネージャーとしてCVCの運営を行う。Future Food Fund は、CVCでありながら、他の食に関係する事業会社からの出資を集めて運営する、ユニークな組織形態が特徴です。オイシックスの前職でも、農産物、加工食品双方の商品開発を経験し、投資先のベンチャーには主に事業面での支援を行う。

(4) フードテックビジネスコンテスト業務

① 審査委員の選任 (2/2)

本審査委員では二次審査の審査員と重複しない形で、以下5名を選任した。

氏名	所属	プロフィール
荻野 浩輝	一般社団法人AgVenture Lab	1990年農林中央金庫入庫。2000年UC-Berkeleyに留学。2017年デジタルイノベーション推進部新設、執行役員同部長就任。2019年5月AgVenture Labを設立、代表理事理事長就任。2021年4月農林中央金庫特別参与就任。神戸大学アントレプレナーシップセンター客員教授。
松本 恭幸	アグリビジネス投資育成株式会社	静岡県出身。慶応大学経済卒、コーネル大MA、ロンドン大Ph.D.。日本長期信用銀行を経て1999年農林中央金庫入庫。開発投資部副部長、シンガポール支店長、営業第二部長、投融資企画部長、常務理事、常務執行役員グローバル・インベストメンツ本部副本部長、常務執行役員食農法人営業本部副本部長を歴任し、現職に就任。
田中 宏隆	株式会社UnlocX	パナソニックを経て、マッキンゼーにてハイテク・通信業界を中心に8年間に渡り、成長戦略立案・実行、M&A、新事業開発、ベンチャー協業などに従事。17年、シグマクスに参画。同年、スマートキッチン・サミット・ジャパンを立ち上げ、以来食を起点とした事業共創エコシステムの形成を通じた新産業創出を目指す。米スマートキッチン・サミット (SKS)、Rethink Food (米CIA) をはじめとした国内外での多数の講演、メディアを通じた情報発信にも積極的に取り組む。
柏原 正樹	味の素株式会社	味の素株式会社 執行役、ビジネスモデル変革担当。グローバルコーポレート本部 R & B (リサーチ & ビジネス) 企画部長として研究開発企画と新事業開発を担当する。大阪府出身。京都大学農学部卒、農学研究科修士課程修了。1990年味の素株式会社入社。食品開発研究所、東京支社、タイ味の素、研究開発企画部、経営企画部、食品研究所商品開発センター長、同技術開発センター長、等を経て現職へ。2017年執行役員、2021年執行理事、2022年執行役(現職)。
長田 昌士	明治ホールディングス株式会社	明治乳業(現 明治)で乳児用粉乳等のニュートリション開発研究、米国カリフォルニア大学デービス校客員研究員等を経て、商品開発部長を担当した後、明治HD 価値共創センターでセンター長を務める。岩手大学非常勤講師や、食品の国際規格Codexの専門委員等も歴任。

(4) フードテックビジネスコンテスト業務

② ビジネスプランの募集 (1/2)

農林水産省及びフードテック官民協議会との協議の上、以下の通り行った。

- 実施スケジュール：



- 実施方法：両部門とも企業・個人どちらからの応募を可能としたうえで、事業化を目的とした具体的な検討が行われている『ビジネス部門』、アイデア段階でも応募可能な『アイデア部門』を設定した。

ビジネス部門

既にビジネスとして具体的な事業検討が行われている取組
※展開中の事業であってもさらなる成長や発展が見込まれるプラン等も応募可

アイデア部門

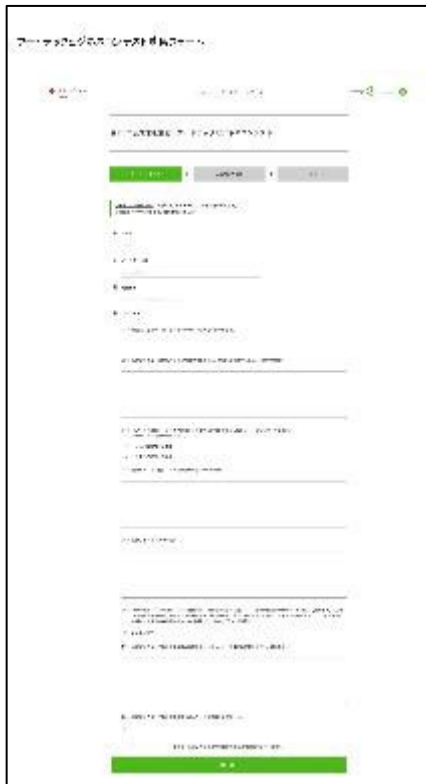
ビジネス部門に該当しないアイデア段階の取組

(4) フードテックビジネスコンテスト業務

② ビジネスプランの募集 (2/2)

専用Webサイトにて募集要項を公開。公募期間は令和5年8月21日（月）～令和5年10月15日（日）とし、広報用ポスターの送付、メルマガ、農林水産省HP等により周知し、94件の応募があった。

エントリー画面



周知ポスター



周知先 (一例)

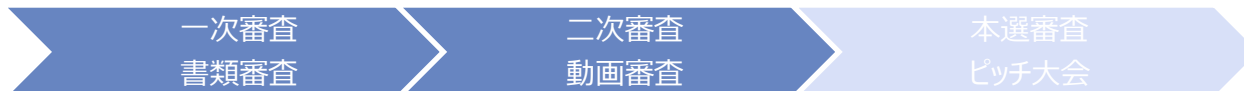
#	媒体	実施先・対象	対応者
1	プレスリリース	農林水産省	農林水産省
2	プレスリリース	パソナ農援隊	パソナ農援隊
3	プレス関連	@プレス	NTTデータ経営研究所
4	HP	農林水産省新事業創出 (フードテック等) ページ	農林水産省
5	HP	FoodTechLab	NTTデータ経営研究所
6	HP	NTTデータ経営研究所	NTTデータ経営研究所
7	HP	登竜門	パソナ農援隊
8	HP	Peatix	パソナ農援隊
9	メルマガ	フードテック官民協議会	NTTデータ経営研究所
10	メルマガ	食料産業クラスターメルマガ	食品供給研究センター
11	メルマガ	パソナ農援隊メルマガ	パソナ農援隊
12	掲示	農村漁村発イノベーションセンター	パソナ農援隊
13	掲示	各大学農学部・農業高校・農業大学校等	NTTデータ経営研究所
14	Twitter	NTTデータ経営研究所	NTTデータ経営研究所
15	Facebook	NTTデータ経営研究所	NTTデータ経営研究所

(4) フードテックビジネスコンテスト業務

③ 審査委員会の運営

1次審査、2次審査は以下要領で書面開催とした。

審査の流れ



一次審査（パソナ農援隊/フードテック官民協議会事務局（農林水産省・NTTデータ経営研究所））

審査期間：令和5年10月16日～10月25日 エントリーフォームおよび添付資料による書類審査

二次審査

審査期間：令和5年11月27日～12月15日 一次審査を通過した応募者のプレゼン動画（5分）・資料により外部審査員4名による審査

審査項目

一次・二次共通

新規性【重点項目】

着眼点が斬新であること、類似事業がないこと

実現可能性【重点項目】

事業化の可能性・実現可能性が高いこと（評価対象）

・ビジネス部門：応募時点から5年間の事業計画・アイデア部門：想定する事業開始時点から5年間の事業計画

将来性【重点項目】

ビジネスとして成長が見込めること、収益性があること

課題解決力

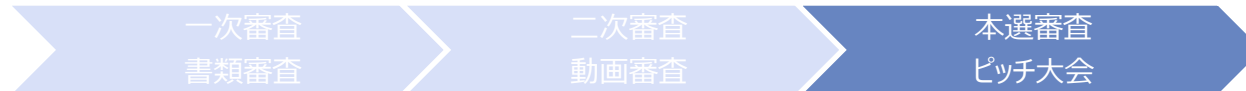
想定する社会課題に対して解決する方法が明確であること

(4) フードテックビジネスコンテスト業務

④ 本選審査及び表彰式の運営 (1/3)

本選審査はピッチ大会として、東京ミッドタウン八重洲で開催した。

審査の流れ



本選審査

開催日時：2024年2月3日（土）13時00分～16時30分（交流会：16時30分～18時00分）

会場：東京ミッドタウン八重洲（東京都中央区八重洲二丁目2番1号）JR「東京」駅地下直結（八重洲地下街経由）

当日スケジュール：

11時00分 本選出場者会場入り 注意事項説明/リハーサル 司会者会場入り

12時00分 農林水産省会場到着

12時20分 本選審査員参集・審査員審査要領説明

12時30分 フードテックビジネスコンテストサポーター会場入室

13時00分 未来を創る！フードテックビジネスコンテスト

1. 開催挨拶

農林水産省大臣官房新事業・食品産業部長小林大樹様

2. 発表順番・注意事項説明

13時10分 プレゼンテーション開始

アイデア部門→ビジネス部門合計12組

（ピッチ5分+審査員コメント1組10分を想定）

15時30分 審査（別室で審査会開催）

16時00分 審査結果発表

16時20分 閉会

16時30分 交流会（出場者・審査員・FTBCサポーター・FT官民協議会）



(4) フードテックビジネスコンテスト業務

④ 本選審査及び表彰式の運営 (2/3)

本選出場者はアイデア部門から5名、ビジネス部門からの7名。受賞者は5名。

情報はホームページにて公開 (https://foodtech-evolve.jp/wp/wp-content/uploads/2024/02/foodtechresult_01.pdf)

本選出場者

受賞者

【アイデア部門】 (五十名順)

	氏名	所属	タイトル
1	金沢 恵子	神戸情報大学院大学	Edu MEAL: 食事と運動した動画配信による食育サピス
2	雨森 典之	合同会社ノーエン	多様化する消費者の嗜好に合う農産物利促するAgriColor
3	遠崎 英史	株式会社プラントフォーム	中山間地域の棚田を利用した循環農業 (プラントボックスシステム)・グリーンエネルギー (ソーラー) 活用
4	木多 隆史	ミツワ株式会社事業推進部	3DフードプリンターとロボットのAIによる新サービスモデル
5	南 俊輔	グローバル経済大学院	もったいない文化×センサー技術×AIによる食品ロス問題解決

【ビジネス部門】

	氏名	所属	タイトル
1	荻野 友貴	株式会社HITOKUCHI	47都道府県 究極フルーツコレクションシリーズ
2	風岡 俊希	株式会社エンドファイト	エンドファイト「Dark-septate endophyte」を活用した汚染土壌上での腐付加価値な再生型農業の実現
3	倉橋 大希	RE:ARTH (匿名)	土壌革命〜フービーから始まる循環型土壌栽培〜
4	佐々木 佑介	株式会社ささのトマトまひび	3D 解析技術と農業特化型 LLM を用いたデジタルツイン農業
5	中村 慎之祐	株式会社グリーンユース	粉末化技術で“未利用食品”を新たな食品へ生まれ変わらせる
6	平林 馨	株式会社ストロウト	魚病早期診断システム開発プロジェクト
7	山口 孝司	AGRSIT株式会社	ハウスの可視化を加速するSustagram Farm

部門名	賞	タイトル	受賞者
アイデア部門	最優秀賞	「棚田ボックス」(循環型施設園芸) 低投資、高収益、脱炭素型食料供給システムの実現	遠崎 英史
	優秀賞	もったいない文化×センサー技術×AIによる食品ロス問題解決	南 俊輔
ビジネス部門	最優秀賞	プラットフォーム微生物「DSE」によりあらゆる環境で植物の生育を実現する	風岡 俊希
	優秀賞	ハウスの可視化を加速するSustagram Farm	山口 孝司
—	審査員特別賞	未利用食品を新たな食品へと生まれ変わらせる“粉末技術”	中村 慎之祐

(4) フードテックビジネスコンテスト業務

④ 本選審査及び表彰式の運営 (3/3)

表彰式後は、交流会を開催。参加者を本選出場者・審査員・FTBCサポーター・フードテック官民協議会会員（要事前申し込み）とし、マッチング機会を創出した。

交流会

16時30分 フォトセッション

16時45分 開会ご発声 株式会社UnlocX 田中様
出場者と審査員及びVCとの名刺交換・意見交換・アドバイス

17時15分 出場者とその他参加者との名刺交換・意見交換・アドバイス

17時45分 中締めご発声 アグリビジネス投資育成株式会社 松本様

18時00分 交流会 終了



(4) フードテックビジネスコンテスト業務

⑤ 副賞等の企画

FTBCサポーターとして、15社より副賞が提供された。

情報はホームページにて公開 (<https://foodtech-evolve.jp/business-contest/partner/>)

FTBCサポーター一覧

ICS-net株式会社	食品化学新聞社
アグリ創研株式会社	株式会社中西製作所
SK弁理士法人	Full Commit Partners
オイシックス・ラ・大地 株式会社 /Future Food Fund 株式会社	株式会社ファーマーズ・フォレスト
キューピー株式会社	株式会社三菱総合研究所
くら寿司株式会社	明治ホールディングス株式会社
株式会社ケンコーマヨネーズ	株式会社良品計画
Sustainable Food Asia 株式会社	

(4) フードテックビジネスコンテスト業務

⑥ 受賞者の情報発信

フードテックビジネスコンテスト開催後は、受賞者の情報発信を行った。

情報はホームページにて公開 (https://foodtech-evolve.jp/business-contest/r05bc_report)

開催レポート



インタビュー動画

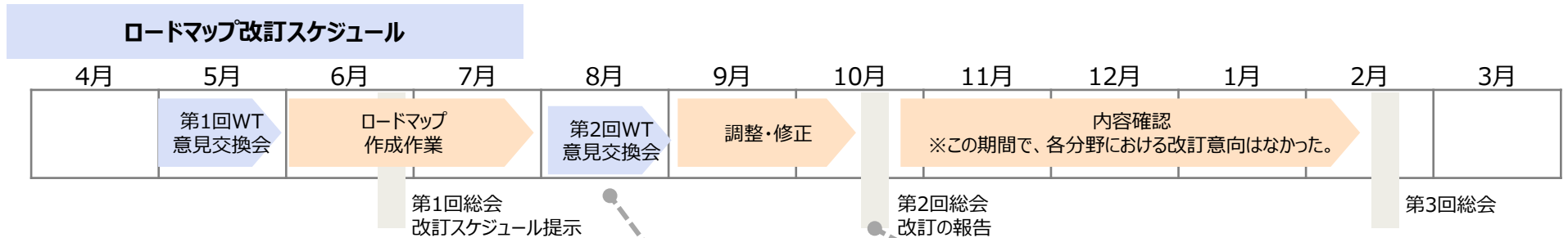


(5) ロードマップの改訂支援

(5) ロードマップの改訂支援

① WT・CC等からの意見聴取

ロードマップ改訂にあたり、各WTとの意見交換を実施した。各WT内で作成した改訂案を基に、農林水産省と協議の上作成した。※開催概要及び議事概要は「(6) WT・CCの進行管理」と同じため割愛



WTにおける作業内容

- 現行の官民協議会ロードマップを再整理・アップデートし、ロードマップに反映
- これまでにWTで議論を進めてきた事項や、ビジョンを見据えて盛り込むべき事項等を追加
- 政治・経済・社会・技術の論点を踏まえて項目を整理

ロードマップ改訂内容の決定

- 各WTの改訂案を基に、貴省及び関係省庁との調整を行い、改定案を再整理
- 各WTとの協議の上、内容を確定

(5) ロードマップの改訂支援

② 協議会会員からの意見聴取

第2回総会／提案・報告会にて改訂報告を行い、終了後のアンケートでご意見を受け付けた。

※ロードマップの最終版は「(7) Appendix」に掲載

総会／提案・報告会で得た会員からのロードマップ改訂に関する主なご意見・ご感想

- 目まぐるしく変わる社会状況に適応するため、**状況変化に応じたロードマップの見直しを随時行って現実に対応、目標を実現して欲しい**
- **アウトプットやゴールを定量的に記述してもらえると、イメージがわかりやすいのではないのでしょうか？**
- WTの協議結果を反映させているところが極めて民主的に感じます。
- **WT/CCでの議論の内容を組み込みながら、毎年ブラッシュアップしていくので非常に期待しています。一方で、幅広い取り組みになりすぎて、目標を達成できないのではと懸念していますが、是非実現に向けて頑張りましょう。**
- 鋭意、改訂しながら推進して頂いていると理解しました。
- **ロードマップについては、より具体的なアクションプランに落とし込んだ方がよいと思う。**
- 初めて参加する者としては、変化点が語られて、背景が分かってよかった。前回までは、どんな、課題、どんな苦勞を感じたが、何々を切っ掛けに、これこれこう考えたり、悩んだりした、そして修正した、これこれ追加した、**の課題、悩んだことの話をもっと多く話した方が、現状が分かるし、最新の取り組むべき解決すべき課題が、伝わってもっとおもしろくなる、**と考えています。
- **「植物由来の代替タンパク資源」(WT)の「マーケットの創出」の分野において「豆腐・納豆など伝統的(大豆加工)食品を含めた」という文言が追加されたことが興味深い。その経緯と今後の展開に注目したい。**
- 全体感の理解、特に自身の所属のWTは進行状況も良く分かっているのですが、その他WTの改訂ポイントはもう少し詳細を深く理解したかったです。
- どの分野についても、変更の目的についての説明があり分かりやすかったです。一方で、具体的な目標や目的、ゴールがより明確になると良いと考えます。

(6) WT・CCCの進行管理

(6) WT・CCの進行管理

① 活動概要

令和4年度から継続し、計 10 WT・CCが活動している。

昆虫ビジネス研究開発 WT

動物飼料用、食料用の昆虫の市場を形成していくための生産方法や、研究、安全性の評価、用途開発等の課題を特定し、解決に向けた検討、実証を行う。

細胞農業WT

研究開発が進む細胞農業(培養肉)の産業化に向け、①安全性、表示の在り方、②消費者とのコミュニケーション、③既存産業との共存の仕組みと役割分担の明確化等について検討を行う。

サーキュラーフード 推進WT

捨てられるはずだった食品を新たな食料として循環させる「サーキュラーフード」の推進を通じ、持続可能な社会の実現に向けた検討を行う。

食生活イノベーションWT

多世代が集いやすいスマートキッチンや、買い物における行動変容をスコア化するサービスなど、デジタル技術等を活用し食を通じたコミュニケーションを促進するための検討を行う。

FoodTech Lab CC

フードテック領域の国際動向、日本企業、研究機関、団体の取組などの情報を集約し、発信するWEBサイト「FoodTech Lab」を運営する。
<https://foodtech-lab.jp/>

スマート育種産業化WT

ゲノム編集等による今後のビジネス市場を形成していくための事業化プロセス、技術的な課題を特定し、その解決に向けた検討を行う。

Plant Based Food 普及推進WT

健康、気候変動など連鎖する食をめぐる課題を自分ごと化し日々の生活でサステナブルな選択ができるよう、プラントベースフードの意義や行動変容を促す方策等の検討を行う。

ヘルス・フードテックWT

食の高いQOL実現に向け、検討体制を構築し、実現のための技術課題を特定、その解決策について検討を行う。

細胞農業CC

細胞培養技術を用いて農作物、水産物を生産する細胞農業（培養肉、精密発酵など）に関する情報発信、各種調査を通じ、同分野の理解促進、受容を目指す。

SPACE FOOD WT

※休会中

国際的に競争力の高い有人宇宙滞在技術の実現と日本の食産業の競争力強化を目的として、宇宙食に係るフードテックの研究開発目標やロードマップ等について検討を行う。

(6) WT・CCの進行管理

② 意見交換・ヒアリング

ロードマップ改訂に関する意見交換及び、活動状況に関するヒアリングを実施した。

意見交換会実施状況

WT	第1回意見交換会	第2回意見交換会	第3回意見交換会
	<ul style="list-style-type: none"> ロードマップ改訂作業依頼 活動状況と取組予定 官民協議会への要望 等 	<ul style="list-style-type: none"> WTで作成したロードマップ改訂案の確認 活動状況と取組予定 等 	<ul style="list-style-type: none"> 貴省で再整理したロードマップ改訂案の確認 活動状況と取組予定 等
昆虫ビジネス研究開発WT	2023年5月8日	2023年8月8日	2023年10月12日
細胞農業WT	2023年4月28日	2023年8月23日	2023年10月19日
サーキュラーフード推進WT	2023年5月9日	2023年8月23日	不開催
食生活イノベーションWT	2023年5月10日	2023年7月19日	2023年10月10日
スマート育種産業化WT	2023年5月23日	2023年8月7日	2023年10月16日
Plant Based Food普及推進WT	2023年5月24日	2023年8月22日	2023年10月13日
ヘルス・フードテックWT	2023年5月18日	2023年8月10日	2023年10月19日

(6) WT・CCの進行管理

③ 活動状況の把握 (1/3)

各WT・CCの今年度の主な活動内容と次年度計画を把握した。

WT・CCの活動状況

WT・CC	今年度活動内容	次年度計画
昆虫ビジネス研究開発WT	ガイドライン3種作成・公開 ・食用及び飼料用カイコ生産ガイドライン ・ミールワーム生産ガイドライン ・イエバエ生産ガイドライン ※ガイドライン作成に注力したため、イベントやセミナー等の活動はなし	WT内にて今後協議予定
細胞農業WT	計3回の勉強会、および複数回のロードマップ作成に係る協議を実施 ・6月21日 勉強会①（細胞性シーフードの企業や社会受容性に係る研究者を招き講演） ・6月28日勉強会②及びロードマップ協議①（細胞の分化を促進するサプリメントの開発を行う企業のCEOを招き講演/想定産業成長スケジュール作成のための協議） ・7月10日・28日、8月23日 ロードマップ協議②③④ ・11月20日 勉強会③（インテリジェントバイオリアクターの製造開発企業による情報提供/食品に使われる主な植物のゲノム内に動物性タンパク質の遺伝子DNAコードを組み込む技術に関する情報提供）	・随時、国内外の有識者を招き、勉強会を開催 ・推進ロードマップ案をもとに、細胞農業が社会実装される際の産業の概観についてポンチ絵の作成を検討 既存産業との共存・相乗効果が視覚的にわかるようなものを作成することで、業界のパブリックコミュニケーションに役立てる
サーキュラーフード推進WT	休会中	—

(6) WT・CCの進行管理

③ 活動状況の把握 (2/3)

各WT・CCの今年度の主な活動内容と次年度計画を把握した。

WT・CCの活動状況

WT・CC	今年度活動内容	次年度計画
食生活イノベーションWT	ロードマップのフォロー、パーソナライズドリンクのビジネス検討、シェアダイニングのビジネス検討を実施 ・12月25日 シェアダイニング開催	WT参加企業の取り組みを継続して支援
スマート育種産業化WT	ロードマップの検討、イベントを実施 ・5月23日、6月20日 ロードマップ協議①② ・9月25日 イベント開催 一般向けイベント「ゲノム編集を活用した食と環境の未来～NTTグリーン&フードが考える地球と食のデザイン～」の開催協力	民間企業による団体「スマート育種協議会」に活動及び役割を引き継ぐ形で解散予定
Plant Based Food普及推進WT	WTとして5回目となる全体ミーティングを実施 ・24年1月30日 第5回ミーティング テーマ「プラントベースフードをどう日本で普及させるか」	第6回ミーティング（24年4月予定） テーマ：意識実態調査（1回目・2回目）結果報告 登壇者：六甲バター中尾氏 他、調整中 形式：現地開催と zoom ウェビナーの併用で検討中

(6) WT・CCの進行管理

③ 活動状況の把握 (3/3)

各WT・CCの今年度の主な活動内容と次年度計画を把握した。

WT・CCの活動状況

WT・CC	今年度活動内容	次年度計画
ヘルス・フードテックWT	<p>計5回の会議、第1～3回官民協議会総会への出展を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月26日 第1回会議 テーマ「デジタルヘルスケア最前線」に基づき、最新のデジタルヘルスケア技術・サービスについて知見を深めた ・7月25日 第2回会議 テーマ「『あたらしい機能性食品のかたち』に基づき、個人の食および体データの取扱いに関する国の動向とレギュレーションについて知見を深めた ・9月28日 第3回会議 テーマ「食のone to oneマーケティング」に基づき、個人の食および体データを活用したパーソナルサービスについて知見を深めた ・12月12日 第4回会議 テーマ「健康は、あたりまえなのか？」に基づき、ユーザーが健康のために利用する技術・サービスについて議論 ・24年2月28日 第5回会議 テーマ「ヘルスケアサービスは、なぜ、バズらないのか」に基づき、今後のパーソナルヘルスケアサービスの可能性について議論 	<ul style="list-style-type: none"> ・WT内で定義した「健康実現のための未来食」の認知度向上と社会実装に向けて活動を継続 ・今年度と同様に5回程度のWT会議と、総会／提案・報告会でのプレゼンテーションを実施 ・参画機関との連携をさらに深めて、健康実現のための未来食社会実装のために、希望する参画機関と競争的資金への応募も進めていく
FOOD TECH Lab CC	<p>FOOD TECH Lab を運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・23年度掲載コンテンツ数 ニュース：100件、事例：3件、イベント：1件 	23年度と同様の活動を実施する方針
細胞農業CC	<p>一般市民への情報発信として2件のイベントを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月15日 細胞農業オンラインセミナー「精密発酵・植物分子農業とは!?～新しいタンパク質の可能性を探る～」 ・8月29日 第5回細胞農業会議 	第6回細胞農業会議の開催（2024/08/29-30予定）

(7) Appendix

ロードマップ更新に伴う改訂

植物由来の代替タンパク質源
昆虫食・昆虫飼料
スマート育種のうちゲノム編集
細胞性食品
食品産業の自動化・省力化
情報技術による人の健康実現

2023年10月25日更新

目指す姿

日本発の**フードテックビジネスを育成**することで、日本と世界の食料・環境問題の解決に貢献するとともに、日本を活性化する新しい産業を創出し、日本経済の発展に貢献する。

(1) 世界の食料需要の増大に対応した**持続可能な食料供給**を実現する

【現状】

- 増大する食料需要や地球環境への負荷、生産資材の価格高騰等のリスクに直面している中、持続可能な食料供給を実現する必要がある。
- プラントベースドフード、ゲノム編集育種、昆虫や微生物の活用、細胞性食品、AI等を活用したフードロスの削減などの研究開発が進展している。

【将来】

- 気候変動への対応や生物多様性保全など**地球環境への負荷低減**と、**タンパク質源等の食料供給の増大**を両立する。
- 食肉・食用水産物と細胞性食品は、今後も増加する食料需要を共に担うものであることを踏まえ、既存の産業との両立を図る。

(2) 食品産業の**生産性の向上**を実現する

【現状】

- 人口減少・高齢化や原材料価格高騰等により、食品産業が厳しい状況下にあるため、スマート化により生産性向上を図る必要がある。
- AI・ロボット**について現場環境に応じたカスタマイズや対応範囲の拡大が進められている。

【将来】

- サプライチェーンにおける**過重な労働負担・人手不足を解消**し、食料の持続可能な供給を実現する。

(3) 個人の多様なニーズを満たす豊かで**健康な食生活**を実現する

【現状】

- 健康やアレルギー対応等、様々なニーズに最適化した食品やサービス等の開発が必要である。
- 機能性成分含有量の多い作物、**完全栄養食**、**各個人に最適な食事の提案**を行うアプリ、食に制限のある者に対する製品等の開発が進展している。

【将来】

- 個人の嗜好、信条、ライフスタイル、健康状態等を踏まえて**個別最適化**した食体験を提供することで、心身の健康を実現する。

課題と必要な取組

(1) プレーヤーの育成 (フードテック企業を生み出すための環境整備)

① オープンイノベーションの促進

- スタートアップと大企業、大学等の研究者**と企業、農林水産・食品分野と異分野の連携等の**オープンイノベーション**を実現することで、新たな技術の創造を促進する。
- テーマごとのコミュニティを形成し、連携先のマッチング、協調領域の課題解決、設備・販売網・知見の共有等を促進する。

② スタートアップの育成

- ルール整備や消費者理解の確立等に時間を要する新技術を導入するフードテックの事業化の課題を解消するため、構想から事業化まで**適切な資金供給**を行う。
- フードテック分野に関心を持つ**機関投資家への情報開示の在り方**を検討する等、民間投資を活性化するための環境を整備する。

(2) マーケットの創出 (新たな市場を作り出すための環境整備)




① 戦略的なルール作り






- 新たな技術を事業化するために必要となる**ルール整備**について、国や民間による対応方針を決定する。
- 海外市場へ進出するコスト増大を防ぐため、**国際整合性**を踏まえたルールを整備する。








② 消費者理解の確立

- 食経験の少ない食品について**安全確保**の取組を進めるとともに、適切な表示、消費者への**情報開示**やコミュニケーションを実施し、消費者の信頼を確保する。
- 目に触れ口にする機会の提供や、社会課題への理解を増進する。




取組	実施時期			対応者
	2023年度	2023年度	2024年度～	
プレイヤーの育成 （技術開発の促進やスタートアップの育成）				
味や食感、香り等の向上に向けた商品開発				民間企業
消費者ニーズ等に対応した国産原料を活用した商品開発				民間企業
多種多様な植物性原料を用いた商品開発				民間企業
大豆の新規用途育種素材・品種の研究開発				研究機関
マーケットの創出 （ルール作りや消費者理解の確立）				
大豆ミート食品類JASの普及、国際化				農林水産省 民間企業
プラントベースフードのISO規格策定への関与				農林水産省 民間企業
植物性食品を取り入れることのメリットや意義の発信				業界団体




取組	実施時期			対応者
	2023年度	2024年度	2025年度～	
プレイヤーの育成 （技術開発の促進やスタートアップの育成）				
味や食感、香り等の向上に向けた商品開発				民間企業
消費者ニーズ等に対応した国産原料を活用した商品開発				民間企業
多種多様な植物性原料を用いた商品開発				民間企業
大豆等の新規用途向け育種素材・品種の研究開発				研究機関
マーケットの創出 （ルール作りや消費者理解の確立）				
大豆ミート食品類JASの普及、国際化				農林水産省 民間企業
プラントベースフードのISO規格策定への関与				農林水産省 民間企業
豆腐・納豆など伝統的（大豆加工）食品を含めた植物性食品を取り入れることのメリットや意義の調査と発信				業界団体








取組	実施時期			対応者
	2023年度	2023年度	2024年度～	
プレイヤーの育成 （技術開発の促進やスタートアップの育成）				
大量生産段階に移行するための、昆虫飼養管理及び製品化システムの技術開発や、コストダウンに向けたプラント仕様の実証				民間企業 研究機関
昆虫飼料の養殖魚（魚種ごと）、豚、家きんへの給餌適性の把握				民間企業 研究機関
マーケットの創出 （ルール作りや消費者理解の確立）				
安全性確保のための生産ガイドラインの作成による、業界全体への消費者からの信頼性の確保				
コオロギの食品及び飼料原料としての利用における安全性確保のための生産ガイドライン				業界団体 農林水産省
他の昆虫についてのガイドライン				業界団体 農林水産省
		ガイドラインを順次追加		
昆虫食・昆虫飼料のメリットや意義の発信				業界団体

取組	実施時期			対応者
	2023年度	2024年度	2025年度～	
プレイヤーの育成 （技術開発の促進やスタートアップの育成）				
消費者の需要に応じた段階的な昆虫食の商品展開 昆虫を原料とした新たな食品の開発・消費者の受容性の確認				
生産体制の確立				
大量生産段階の移行に向けた技術開発 昆虫飼養管理・製品化システム技術等の基本技術の確立				民間企業 研究機関
小規模分散型生産システムの構築 昆虫に給餌する餌資源（食品残渣等）の量に応じた生産施設の整備・その施設を中心とした地域内エコシステムモデルの検討				
昆虫飼料の養殖魚（魚種ごと）、豚、家さんへの給餌適性の把握				
マーケットの創出 （ルール作りや消費者理解の確立）				
安全性確保のための生産ガイドラインの作成による、業界全体への消費者からの信頼性の確保				
ミールワーム、カイコ（食・飼料用）、イエバエ生産ガイドライン※作成				民間企業 研究機関
実情に合わせたアップデート				農林水産省
昆虫食・昆虫飼料のメリットや意義、安全性等に関する情報発信				民間企業 研究機関

※2023年度コオロギ、ミズアブに関する生産ガイドライン作成









取組	実施時期			対応者
	2023年度	2023年度	2024年度～	
プレイヤーの育成 （技術開発の促進やスタートアップの育成）				
ゲノム編集による新たな商品の開発・販売				民間企業 研究機関
マーケットの創出 （ルール作りや消費者理解の確立）				
ゲノム編集技術の利用により得られた生物の生物多様性影響に関する情報提供のプロセスの迅速化に向けた取組				農林水産省
ゲノム編集による商品への消費者理解を増進する活動（アウトリーチ活動など）				研究機関 民間企業 農林水産省

取組	実施時期			対応者
	2023年度	2024年度	2025年度～	
プレイヤーの育成 （技術開発の促進やスタートアップの育成）				
ゲノム編集による新たな商品の開発・販売				民間企業 研究機関
ゲノム編集の要素技術（ゲノム編集因子・導入手法）の開発				研究機関 民間企業
マーケットの創出 （ルール作りや消費者理解の確立）				
ゲノム編集による商品への消費者理解を増進する活動 （アウトリーチ活動など）				研究機関 民間企業 農林水産省

取組	実施時期			対応者
	2023年度	2023年度	2024年度～	
プレーヤーの育成 （技術開発の促進やスタートアップの育成）				
立体構造の作成技術の確立				民間企業 研究機関
コスト削減手法の確立 例) 培地成分（血清、成長因子等）、大量培養技術				民間企業 研究機関
マーケットの創出 （ルール作りや消費者理解の確立）				
食経験のない新規食品であることから、安全確保措置の検討・実施 ・開発企業の製法や海外の動向について情報収集中 ・その結果を踏まえつつ、必要な措置やスケジュールを検討				厚生労働省 農林水産省 業界団体
表示ルールの検討・適切な表示の実施 ・開発企業の製法や海外の動向について情報収集中 ・安全確保等の検討状況を踏まえつつ、必要な措置やスケジュールを検討				消費者庁 農林水産省 業界団体
タネ細胞の取扱いに関する措置の検討・実施 ・開発企業の製法について情報収集中 ・その結果を踏まえつつ、必要な措置やスケジュールを検討				農林水産省 業界団体
家畜・水産動物衛生のための適切な措置の実施 ・細胞性食品の輸入時の適切な措置のため、海外の動向を情報収集中				農林水産省 業界団体
消費者理解の確立 ・消費者に関連情報を提供できるよう、開発企業の製法や海外の動向について情報収集中 ・その結果を踏まえつつ、手段やスケジュールを設定				業界団体


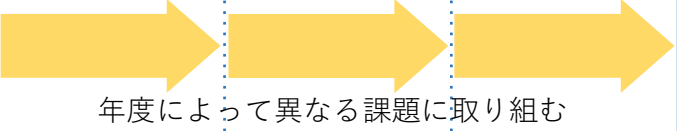



注) フードテック推進ビジョン及びロードマップにおける「細胞性食品」とは、動物の細胞を体外で人為的に培養することで生産した食品のことを指す。

FAO及びWHOにおいては、名称について様々な意見が存在し科学的に100%正しい名称は存在しないことを確認したうえで、「細胞性食品（cell-based food）」をFAOと専門家との議論においてのみ使用することで合意している。






取組	実施時期			対応者
	2023年度	2024年度	2025年度～	
プレーヤーの育成 （技術開発の促進やスタートアップの育成）				
立体構造の作成技術など食品の加工技術の開発				民間企業 研究機関
コスト削減手法の確立 例) 培地成分（血清、成長因子等）、大量培養技術				民間企業 研究機関
タネ細胞に係る技術開発 例) 細胞株樹立技術、流通・保存技術				民間企業 研究機関
マーケットの創出 （ルール作りや消費者理解の確立）				
食経験のない新規食品であることから、安全確保措置の検討・実施 ・開発企業の製法や海外の動向について情報収集 ・その結果を踏まえつつ、必要な措置やスケジュールを検討				厚生労働省(*) 農林水産省 業界団体
表示ルールの検討・適切な表示の実施 ・開発企業の製法や海外の動向について情報収集 ・安全確保等の検討状況を踏まえつつ、必要な措置やスケジュールを検討 ・安全確保措置を前提とした、消費者の自主的かつ合理的な食品選択に資する表示の在り方を検討				消費者庁 農林水産省 業界団体
タネ細胞の取扱いに関する措置の検討・実施 ・製法や海外動向について情報収集、結果を踏まえ必要な措置を検討				農林水産省 業界団体
家畜・水産動物衛生のための適切な措置の実施 ・細胞性食品の輸入時の適切な措置の海外動向について情報収集、結果を踏まえ必要な措置の検討				農林水産省 業界団体
消費者理解の確立 ・消費者に関連情報を提供できるよう、製法や海外の動向について情報収集、結果を踏まえ手段を設定				業界団体








注) フードテック推進ビジョン及びロードマップにおける「細胞性食品」とは、動物の細胞を体外で人為的に培養することで生産した食品のことを指す。FAO及びWHOにおいては、名称について様々な意見が存在し科学的に100%正しい名称は存在しないことを確認したうえで、「細胞性食品（cell-based food）」をFAOと専門家との議論においてのみ使用することで合意している。

(*) 現在、厚生労働省が所管する食品衛生基準行政は2024年4月に消費者庁に移管する予定。食品衛生監視行政については引き続き厚生労働省において所管。

取組	実施時期			対応者
	2023年度	2023年度	2024年度～	
プレイヤーの育成 （技術開発の促進やスタートアップの育成）				
既成のAI・ロボットについて、現場での普及・定着を図る （例：タラコ等のAI検品）				民間企業 経済産業省 農林水産省
試行段階のAI・ロボットについて、優先課題を特定して、食品製造の現場環境に応じたカスタマイズを図る （例：ポテトサラダの盛り付けロボット）				民間企業 農林水産省
人による繊細な動きが求められ、AI・ロボットによる代替が難しい複雑な工程については、AI・ロボットの対応範囲を拡大するための研究開発を食品企業との連携等により推進する （例：魚の小骨取り等水産加工の前処理）				民間企業 経済産業省 農林水産省
マーケットの創出 （ルール作りや消費者理解の確立）				
AI・ロボットについて、食品製造及び飲食店の現場における人間との協働のための安全性確保のためのガイドラインを作成する （ロボットの種類や大きさ、使用環境に応じた出力の上限、必要な安全装置〔緊急停止機能等〕、ガード設置等）				
総菜製造に関するガイドライン				農林水産省
その他の業種・工程別ガイドライン				農林水産省

取組	実施時期			対応者
	2023年度	2024年度	2025年度～	
プレイヤーの育成 （技術開発の促進やスタートアップの育成）				
AI・ロボット等先端技術のモデル実証				民間企業 農林水産省
	年度によって異なる課題に取り組む			
AI・ロボット等先端技術の食品製造の現場環境に応じた小型化、低価格化、機能追加による効率化等の改良実証				民間企業 農林水産省
	年度によって異なる課題に取り組む			
AI・ロボット等先端技術の研究開発と社会実装支援				民間企業 経済産業省 農林水産省
マーケットの創出 （ルール作りや消費者理解の確立）				
モデル実証、改良実証における成功事例の横展開 （講演、事例集、動画配信等）				農林水産省
AI・ロボット等先端技術を食品製造現場に導入するためのガイドラインを作成し、ロボットメーカー等の食品産業への参入を促進する				
ロボット等を食品製造現場に導入する際に留意すべき衛生に関わるガイドライン作成（ロボット・機械メーカー、Sler向け）				農林水産省
先端技術等の技術普及に係る情報をまとめたガイドブック作成 （食品事業者を含む食品産業全体向け）				農林水産省

取組	実施時期			対応者
	2023年度	2023年度	2024年度～	
プレイヤーの育成 （技術開発の促進やスタートアップの育成）				
我が国の食材の栄養・機能性に関するデータ等、健康効果のエビデンスの蓄積				研究機関 民間企業
個人最適食の設計・提案に必要な技術の開発				
個人の健康データ（血圧や腸内環境など）を低負荷で取得できるデバイスの開発				民間企業
摂食内容を簡便かつ正確に把握するための手法の高度化				研究機関 民間企業
提案された個人最適食を提供するためのビジネスモデルの確立				民間企業
マーケットの創出 （ルール作りや消費者理解の確立）				
健康データの取扱いのガイドラインの検討				業界団体

取組	実施時期			対応者
	2023年度	2024年度	2025年度～	
プレイヤーの育成 （技術開発の促進やスタートアップの育成）				
健康効果のエビデンスの蓄積 我が国の食材の栄養・機能性に関するデータ等の蓄積				研究機関 民間企業
個人最適食の設計・提案に必要な技術の開発				
個人の健康データの取得デバイスの開発 血圧や腸内環境などを低負荷で取得できるデバイスの開発				研究機関 民間企業
摂食内容を簡便かつ正確に把握するための手法の高度化 個別化データベースの構築、データ利用法の確立				研究機関 民間企業
個人最適食の提供技術の開発 3Dフードプリンタ・ドリンクプリンタの開発				民間企業
提案された個人最適食を提供するためのビジネスモデルの確立				民間企業
マーケットの創出 （ルール作りや消費者理解の確立）				
健康データの取扱いのガイドラインの検討				業界団体
デジタルヘルスにおける新しい食品表示の在り方の検討 個人最適食の個別提案方法やデジタル情報による食品表示等の検討				民間企業



NTT DATA
Trusted Global Innovator